

平成28年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

連携の成果としての教職大学院と「教育創造コース」

香川大学教育学部と香川県教育委員会は、平成14年（2002年）5月30日に連携協力に関する覚書を交わしました。覚書を締結してから15年が過ぎ、この連携協力に関する実績を記録する報告書も平成28年度で第15号となりました。

香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携事業は、「教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る」（覚書、第1条）ことを目的として、毎年広範かつ活発に行われています。平成28年度については、教員養成に関する取組みが4件、教員研修に関する取組みが6件、調査・研究に関する取組みが1件、事業に関する取組みが15件、その他の取組みが1件など、合計で27件もの多岐にわたる連携事業が実施されました。毎年2月に開催される連携協議会は、会議と情報交換会をセットにして相互の交流が図られております。

さて、平成28年度における香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力について語るとき、連携協議会のもとに設置された2つの専門委員会の成果について触れなければなりません。成果の一つは、平成28年度に高度専門職業人としての教員養成の機能を強化するため、教育学研究科に高度教職実践専攻（教職大学院）を開設し、15名の入学者を得て順調なスタートを切ることができたことです。教育委員会からの強い要望に応え導入した、現職教員を対象とした1年間の短期履修学生制度により、香川県教育委員会からは11名の現職教員学生が入学しました。

もう一つの成果は、県立高校教育コース設置準備委員会の成果です。ここで緊密な協議を重ねたことにより、平成29年4月に香川県立坂出高等学校に「教育創造コース」を開設することができました。香川大学教育学部としては、優秀な生徒の教職への意識を高め、地元で働く教員に求められる資質能力の素地を養うために、今後も「教育創造コース」の教育プログラムに協力します。

ここ数年で、香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携協力はより広範で緊密なものになり、新しい段階（ステージ）へと一歩進んだように思います。今後は、教員の養成・採用・研修を通じて、学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制づくりを連携して模索していくことになるかと思えます。香川大学教育学部は、これからも、人材育成や地域課題を解決する取り組みを通して地域に貢献する学部として、香川県教育委員会との連携協力の関係を進化させ、両者の協働的な取り組みを一層強力に推進していきたいと考えています。

平成29年3月

香川大学教育学部長

毛 利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、本年度より第3期「香川県教育基本計画」の初年度として、これまでの基本理念「夢に向かってチャレンジする人づくり」を継承し、本県教育のより一層の振興を図るため、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、学力の育成や教員の指導力向上等を柱とした教育施策を積極的に展開しているところです。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携・協力に関する取組は15年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携・協力しているところです。

本年度の連携事業を振り返りますと、県教育委員会各課主催の、現職教員研修や初任者研修、73講座に及ぶ教員免許状更新講習、各種研修における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただくとともに、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道徳の教科化に向けた取組みにおいて、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたり、県教育センター運営協議会においてご意見を頂戴したりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。さらに、学生ボランティア派遣事業では、県内の各学校や教育支援センター、放課後子ども教室等で子どもに寄り添いながら関わっていただき、教育現場から多くの感謝の声が寄せられております。

特に、教員養成については、公立学校インターンシップを通して、本県の教員採用内定者26名が事前に学校現場を経験し、4月以降に教育現場に立つ教員としての職務の理解を深めるなど、これからの本県の教育を担う指導的人材が育っていることを心強く感じております。こうした中、坂出高等学校に、平成29年度から新たに教育創造コースを設置する運びとなり、11月に坂出高校の生徒、香川大学の学生、教育学部の教員あわせて約70名の参加の下、プレ行事「教育について語る会」が開催されました。この取組みは、高等学校の段階から現職教員にいたるまでの長いスパンの中で、指導力、技術力のある教員を育てることにつながるものであり、連携の新しい形を構築するという意味でも、大きな成果であったと感じております。

このように、香川大学教育学部と県教育委員会の連携・協力による取組みは、この15年で充実・発展するとともに、教職大学院の設置により、本県の教育を推進する上で、その役割はますます大きくなってきております。県教育委員会としましては、今後とも香川大学教育学部との緊密な連携・協力のもと、未来を担う人材の育成に向け、一層の努力をしてまいりたいと考えております。

平成29年3月

香川県教育委員会教育長

西原 義一

目 次

はじめに

連携の成果としての教職大学院と「教育創造コース」

香川大学教育学部長 毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 西原 義一

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

平成28年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み一覧 6

【資料編】

- [資料1] 平成28年度公立学校インターンシップ実施要領.....13
- [資料2] 公立学校教員等の活用.....15
- [資料3] 香川大学教育学部の専任教員として.....17
- [資料4] 大学教員の公立学校現場での研修制度.....21
- [資料5] 平成27年度香川県教育委員会免許法認定講習.....22
(特別支援学校教諭)
- [資料6] 免許法公開認定講座.....23
- [資料7] 教員免許状更新講習.....24

[資料 8-1]	思考力等の育成モデル校事業	28
[資料 8-2]	学習習慣形成モデル校事業	29
[資料 8-3]	学習意欲向上モデル校事業	30
[資料 8-4]	幼児教育支援員派遣事業	31
[資料 8-5]	豊かな心を育てる事業	33
[資料 9]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	34
[資料 10]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	35
[資料 11]	学生ボランティア派遣事業	36
[資料 12]	学生ボランティア派遣事業（放課後子ども教室）	37
[資料 13]	豊かな人権感覚を育てる事業（学生ボランティア募集）	38
[資料 14]	第 15 回「未来からの留学生」を終えて	39
[資料 15]	平成 28 年度特別支援教育コーディネーター協議会	40
[資料 16]	香川 CST 事業	41
[資料 17]	平成 28 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業	45
[資料 18]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	53

【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	58
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	59

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会（H29.2.8） ○ 幹事会（H29.1.30） <p>(1) 平成 28 年度連携協議会について (2) 平成 29 年度連携事業計画について ・継続連携事業について ・その他 (3) その他</p>	連携協議会開催 （H30.2 予定） ・ 幹事会（1 回程度）	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	○ 平成 28 年度実績報告書作成	・ 平成 29 年度実績報告書作成	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	正規 ・附特支 公立 1 校（参観）5 月（1 日間） 特別 ・附高小 公立小 2 校（実習）5 月（10 日間） ・附坂小 公立小 5 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附高中 公立中 1 校（実習）6 月（5 日間） 公立高 1 校（実習）5 月（5 日間） ・附坂中 公立中 1 校（実習）5 月（5 日間） 公立高 1 校（実習）5 月（10 日間） ※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定） ・参加者予定：26 名（学生 23 名、院 3 名） ・実施期間 平成 29 年 2 月～3 月（5 日程度）	・継続実施	資料 1
③公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・退職校長（岡静子）、主任指導主事（北堀宏、大山修） ・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・継続実施	資料 2
	○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 高木 愛、田崎伸一郎、佐藤盛子	・継続実施	資料 3
④大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ・研修者（1 名） 上野 耕平 准教授 高松市立紫雲中学校	・継続実施	資料 4

2 教員研修に関するもの

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.4～8名、H20.4～7名、H21.4～8名 H22.4～7名、H23.4～6名、H24.4～5名、H25.4～5名 H26.4～5名、H27.5名、H28.11名) ・学校力開発コース 3名 ・授業力開発コース 4名 ・特別支援コーディネーターコース 4名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施	
②教員免許状取得のための 研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(7・8月)への大学教員 の派遣等	・継続実施	資料5
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(外国語 (英語))を取得するための免許法認定講習を 実施(13講座、14単位)	・継続実施	資料6
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 実施なし	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修等、各種研修会の講師・助言者と して大学教員を派遣	・継続実施	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 2名、H26.4～2名、 H27.4～ 2名、H28.4～2名)	・継続実施	
⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	○ 教員免許状更新講習として必修講習 5、選択 必修講習 15、選択講習 53 の計 73 講座を開設	・教員免許状更新講 習として必修講 習 5、選択必修講 習 18、選択講習 56 の計 79 講座 を開設する予定	資料7

3 調査・研究に関するもの

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 学習習慣形成モデル校事業 ・ アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かな心を育てる事業	・ 継続実施	資料 8 -1・2・ 3・4・5

4 事業に関するもの

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松北高、丸亀高	・ 継続実施	資料 9
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体験授業：1 講座で 12 校 98 人が受講	・ 継続実施	資料 10
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) (人権・同和教育課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 16 名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など 公立小・中学校や教育支援センター（適応 指導教室）に 16 名を派遣	・ 継続実施	資料 11
	○ 「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集 ・ 支援ボランティアとして 16 名派遣	・ 継続実施	資料 12
	○ 豊かな人権感覚を育てる事業 ・ 支援ボランティアとして 12 名登録		資料 13
④家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県 教委後援） ・ 約 1000 名超が参加	・ 継続実施	資料 14

項 目	平成 28 年度実績	平成 29 年度計画等	資 料
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開 (9 名受講)	・ 継続実施	
⑨特別支援教育体制整備 の推進事業 ・ 専門家チーム ・ 巡回相談 ・ 特別支援教育コーディネーター協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校(園)を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校(園)の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義	・ 継続実施	資料 15
⑩香川 CST 事業 〔担当：教育学部〕	○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施 ○ CST 養成プログラムの実施 (学生向け小学生 CST・教材 CST, 現職職員向け教材 CST) ○ CST 養成プログラムの修了認定 ○ CST 活動の推進	・ 継続実施	資料 16
⑪「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 〔担当：教育学部〕	○ 発達障害等に関する専門的実践的知識の習得のための研修プログラムの開発、早期支援に関わる幼稚園・保育園と小学校の連携した研修プログラムの開発等に義務教育課、特別支援教育課が参加・連携協力。	・ 継続実施	
⑫平成 28 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業 〔担当：教育学部〕	○ プログラム名：道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発～「かがわ道徳ラボ」を核として～ ・ 「かがわ道徳ラボ」公開講座 ・ 教職実践研究交流会 ・ かがわ道徳ラボ研修会 ・ 公開講演会 ・ 指導者研修会等の実施による研修プログラムの開発等に義務教育課、香川県教育センターが連携協力	・ 未定	資料 17

⑬坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業 (高校教育課) [担当：県教委]	○ プレ行事の実施 11月4日(坂高生, 香大生・香大教育学部教員 計約70名参加) ○ 設置準備委員会における教育内容の検討	・ 出前授業の実施 ・ 附属坂出小学校における教育活動への参加 ・ 教育内容に関する検討	資料18
--	--	--	------

5 その他

項 目	平成28年度実績	平成29年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 平成28年度新規派遣 ※ () は合計数 ・ 附属高松小 3 (25) ・ 附属高松中 3 (19) ・ 附属坂出小 2 (18) ・ 附属坂出中 2 (19) ・ 附属特別支援学校 3 (29) ・ 附属幼稚園 1 (7) 計14名 (117名)	・ 継続実施	

資 料 編

平成 28 年度公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

平成 29 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

2. 対象者

平成 29 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）

3. 参加人数

公立小学校	18 名
公立中学校	7 名
公立特別支援学校	1 名

4. 実施時期・期間

平成 29 年 2 月～平成 29 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部 4 年	高松市立新番丁小学校	2 月 6 日～2 月 10 日	1 名
教育学研究科 2 年	高松市立牟礼北小学校	2 月 6 日～2 月 10 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立牟礼南小学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立花園小学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立太田小学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立下笠居小学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 20 日～2 月 24 日	4 名
教育学部 4 年	高松市立紫雲中学校	2 月 6 日～2 月 10 日	2 名
教育学部 4 年	高松市立高松第一中学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立桜町中学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学研究科 2 年	坂出市立東部小学校	2 月 13 日～2 月 17 日	1 名
教育学研究科 2 年	坂出市立府中小学校	2 月 27 日～3 月 3 日	1 名
教育学部 4 年	宇多津町立宇多津北小学校	2 月 6 日～2 月 20 日	1 名
教育学部 4 年	丸亀市立栗熊小学校	2 月 6 日～2 月 20 日	1 名
教育学部 4 年	綾川町立滝宮小学校	2 月 6 日～2 月 20 日	1 名
教育学部 4 年	綾川町立綾南中学校	2 月 6 日～2 月 10 日	1 名
教育学部 4 年	善通寺市立中央小学校	2 月 6 日～2 月 10 日	1 名
教育学部 4 年	善通寺市立東中学校	2 月 27 日～2 月 3 日	1 名
教育学部 4 年	多度津町立四箇小学校	2 月 20 日～2 月 24 日	1 名
教育学部 4 年	観音寺市立大野原中学校	2 月 6 日～2 月 10 日	1 名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	土庄町立土庄小学校	2月6日～2月10日	1名
教育学部4年	香川県立香川中部養護学校	2月20日～2月24日	1名

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
 - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4版1枚程度）、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4版1枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

平成28年度 第1期教育実践集中講座

「教師になる」とはどういうことか？

～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

【趣 旨】・ 教員採用試験にチャレンジするための準備講座である。
・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

【担 当】 客員教授 大山 修（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）
客員教授 北堀 宏（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）
客員教授 岡 静子（高松市立屋島小学校前校長）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月9日(月) (10:30~12:00)	教授演	<講義・演習>(大山) 【教職理解】「教職の魅力 教職とは」	「教職概論(ロ)」の講義として 行う。(倉石・植田先生)
5月12日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(岡) 【教育法規・教育施策】「ノウハウ集団面接」	「教職の総合的研究」の講義として 行う。(毛利先生)
5月14日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・北堀) 【教育法規】Ⅰ「教育目標と教師に求められる力」 「教員になる①」	「教育法規入門」の集中講義として 行う。(高木(愛)先生・佐藤 (盛)先生)
5月16日(月) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(岡) 【学級経営】「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論」の講義として行 う。(毛利先生)
5月28日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・北堀) 【教育法規】Ⅱ「教育課程と学校評価」 「教員になる②」	「教育法規入門」の集中講義とし て行う。 (高木(愛)先生・佐藤(盛)先生)
6月4日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(大山・北堀) 【教育法規】Ⅲ「生きる力と学力」「教員になる③」	
6月13日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(大山) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の講義として行 う。(毛利先生)
7月4日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(北堀) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒指導ケーススタディ」	「生徒指導論B」の講義として行 う。(毛利先生)
7月4日(月) (14:40~16:10)	611 講義室	<講義・演習>(大山) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(イ)」の講義とし て行う。 (櫻井先生)
7月4日(月) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義として行 う。(毛利先生)
7月11日(月) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義として行 う。(毛利先生)
7月25日(月) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義として行 う。(毛利先生)
7月27日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習>(北堀) 【子ども理解】「授業づくりと子ども理解」	「教育実践プレ演習」の講義とし て行う。(松下先生、七條先生)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務局 TEL: 087-832-1683

平成28年度 第2期教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】客員教授 大山 修 (香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)
客員教授 北堀 宏 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)
客員教授 岡 静子 (高松市立屋島小学校前校長)

【日程】

日時	場所	主な内容	備考
10月21日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習>(大山・岡) 【教育課題の探究】「いじめと体罰」(大山) 「教員としての倫理観」(岡)	「教職実践演習」の講義として行う。(山岸先生)
11月7日(月) (8:50~10:20)	421 講義室	<講義・演習>(大山) 【教職理解】「学校について理解しよう(中学校)」	「教職概論(イ)」の講義として行う。(松下先生)
11月9日(水) (13:00~16:30)	415 講義室	<講義・演習>(北堀・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」シンポジウム 「教育実習を振り返って」助言	「教育実践演習A(教育実習事後指導)」として行う。(山岸先生)
11月14日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(ロ)」の講義として行う。(毛利先生)
11月21日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教職理解】「教職を知る 教職の魅力」	「教職概論(イ)」の講義として行う。(松下先生)
11月25日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習>(大山・岡) 【シンポジウム】「いざ、学校へ」	「教職実践演習」の講義として行う。(山岸先生)
12月8日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【生徒指導】ケーススタディ 「望ましい人間関係づくりと生徒指導」	「生徒指導論A」の講義として行う。(毛利先生)
12月12日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(北堀) 【教職理解】「授業について考える」	「教職概論(イ)」の講義として行う。(松下先生)
12月14日(水) (10:30~12:00)	422 講義室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】「小学校の人権教育について」	「人権教育」の講義として行う。(櫻井先生)
1月23日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習>(大山) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(ロ)」の講義として行う。(櫻井先生)
3月1日(水) (14:00~15:00)	未定	<講義・演習>(岡) 【卒業前直前対策講座】 「4月からの心がまえ」	「卒業前直前対策講座」の講義として行う。(植田先生)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務局 TEL:087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として

～14年目の取り組みと今後の展望～

高木愛・田崎伸一郎・佐藤盛子

1 14年目の活動内容 <資料3-2参照>

2 今年度の取り組みの重点

(1) 学校現場に即した授業の充実

今年度から、交流人事教員3名の内2名が昨年度までと同様に教育学部の学校教育講座（教職実践）に配属され、1名は高度教職実践専攻の所属となっている。交流人事教員が主担当となって実施している学部の科目には、「授業実践論A」「生活科授業研究」「教育法規入門」「教職実践演習」などがある。また、教職大学院では「指導法分析と学習支援」「教材開発の理論と実践」「授業研究の実際」「道徳授業の実践研究」などを担当しており、それぞれの授業において、学校現場での実践をふまえた授業を行っている。

今年度から開設されている教職大学院の授業の一部概要であるが、「指導法分析と学習支援」では、子ども理解・動機づけ・教育評価に関する理論と方法、そして、授業研究や研究協議の理論と実践等について、実務家教員として、授業研究のねらいや方法、研究協議の望ましい在り方等について指導を行った。「教職実践研究」では、担当学生の研究テーマに即した先行研究や実践事例を紹介したり、学生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたり、研究について疑問に感じたことを解決したりするなどの指導助言を行っている。後期は授業実践が学生の中心となるため、授業前の授業研究や授業後の振り返りを行い、研究の成果や課題を明確にしていった。「授業力開発実習」では、現職教員学生が、中核教員として周囲の教員をも巻き込んだ、学年団や教科担当、学校全体の授業力を向上させることができる資質能力の形成をめざしている。そこで、担当教員として学生の置籍校での授業実践にかかわり、教材研究のあり方や、具体的な授業づくり、授業実践後の振り返りなどをマンツーマンで行っている。

(2) 教育委員会・学校との連携

今年度も、従前と同様、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めており、地域ブロック研修会での講師、研究大会に向けての指導助言者として、様々な教育活動推進に尽力してきた。

各学校からは校外学習のサポート、学習支援の依頼などについて、正規の手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行っている。学生に対しては、学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒へのかかわり方などの相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加など、様々な体験ができるように配慮している。

(3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート

「教職概論Ⅰ」の授業では、初年次教育の重要性を鑑み、教員の使命や仕事、学校の仕組みについて講義を行ったり、教員の魅力ややりがいを伝えたりすることで、教育学部に入学してきた学生のモチベーションの向上に貢献できるように努めている。

「教職の総合的研究」の授業では、教員採用選考試験に向けて、学生が主体的に取り組めるように具体的な授業内容を講義したり、集団討論や模擬授業などの演習を実施したりしている。

また、「教職自主サークル」と呼ばれる教員採用に向けた学生の自主的な活動が、毎週月曜日18時から19時30分までの1時間半行われており、交流人事教員はオブザーバーとして指導・助言している。この活動には教員を志望する学生が多く参加しており、学生同士で研鑽する場となっている。活動内容は、集団討論や模擬授業、場面指導などの演習をはじめ、各自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務めるなどしてかかわり、教員採用選考試験にとらわれることなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するかなど、

教職大学院授業風景



教職自主サークル「交流会」



教員としての心構えなどの助言を行っている。今年度は新たに、能楽師の講師を招き、日本の伝統文化についてワークショップ形式で学ぶ機会を設けた。また、昨年度に引き続き「先輩教員からの模擬授業指導」を実施し、教育学部の学生のみならず、医学部看護科等の他学部生や院生も多数参加し、学びを深めた。2月には、教員としての生活について教職に就いている卒業生から話を聞く「卒業生と在校生の交流会」を実施する予定である。

「教職自主サークル」での学生との交流や「教育法規入門」等の授業によるつながりにより、願書の添削や小論文指導、模擬授業の指導の依頼、悩みごとを抱える学生の相談等、交流人事教員の研究室を訪れる学生は多い。教育実習前・中には、指導方法や子どもへの接し方等について相談を受けたり、就職支援員の担当者を中心に、就職支援委員会の教員らとともに学生一人一人の就職支援を細やかに進めている。

(4) 学外との連携

10月11日(日)、教育学部フェスティバル in 香大「未来からの留学生」に「LEGOで遊ぼう!」の講座を開設して、学生と子どもたちがふれあった。教育実習などでは体験しがたい内容であり、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもにやり方を伝えるための語りかけ方などを学ぶよい機会となった。「音読教室」では、各領域から参加した30名以上の学生が企画運営に携わり、子どもたちへのかかわり方や音読の指導について学ぶ場となった。また、高松市の「寛学事業音読劇上演会」として、教育学研究部の4年生が中心となり菊地寛の作品「納豆合戦」を音読劇にしたものを、2月に高松市立花園小学校で上演する予定である。



(5) 研究活動の充実

「教職支援開発センタープロジェクト 実践講座」として25年度末より、卒業前対策講座として、新規採用者、講師採用者に対して、教員になるための心構えを集中講義している。また、昨年度発行した『教員として はじめの第一歩』に引き続き、今年度も交流人事教員にも参加していただき、若手教員に参考にしてもらう手引書の執筆を進めているところである。

個人的な研究では、昨年に引き続き「挑戦的萌芽研究」を申請した。また、日本教育大学協会四国地区研究大会「愛媛集会」では、「教員養成に係る交流人事教員の取り組み」について発表を行ったり、全国教育系大学交流人事教員交流研究集会への参加を行ったりした。

3 今後の課題

平成28年4月より教職大学院がスタートし、交流人事教員のこれまでの教職支援へのかかわり方は大きく見直されることになった。前昨年に教職支援に対する交流人事教員の関わり方を大学側と綿密に話し合っており、スムーズにスタートさせることができているが、課題についてもいくつか見えてきた。1点目は、3名の交流人事教員の役割について調整が必要になってきたことである。2点目は、高度教職実践専攻に所属する交流人事教員は1名であり、今年度からの開始でもあるため、授業記録の集積と管理をしっかりと行っていかなくてはならないことである。また、引継ぎについてもその方法を十分に考えておく必要がある。年度末には、昨年度と今年度の取り組みをもとに、香川大学における交流人事教員のよりよい在り方について協議を重ねることで、従前までの体制を見直し効率化を図りつつ、交流人事教員が緊密に連携をとりながらより幅広い教職支援体制の構築を目指したい。

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの校種や経験から、学生に教員という仕事のやりがいやすばらしさについて伝えるとともに、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。そのために、学生の自主的な活動をサポートし、より教育現場に即した内容を今後も提供していきたい。教員をめざす学生に実践的な学びを保証するためにも、教育委員会や学校現場との関係を大切に保ち続けていく必要がある。

大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上に励んでいく所存である。

14 年目の活動内容

1 学内における活動

(1) 委員会等

- <高木> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、広報委員会、未来からの留学生アドバイザー
- <田崎> 学生支援専門委員会、未来からの留学生アドバイザー、教職大学院専攻委員
- <佐藤> 学生支援専門委員会、教育実習実施専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー、広報委員会

(2) 授業等

- <高木> 教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、学校教育課程論B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、教育学チュートリアル、教育実践演習A・B、教育実践事例研究、教職実践演習、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査
- <田崎> 【学部】学校教育課程論A、教職概論イ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論A、教育実践演習A、就職セミナー、教職自主ゼミ
【教職大学院】指導法分析と学習支援、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、教材開発の理論と実践、授業研究の実際、道徳授業の実践研究
- <佐藤> 大学入門ゼミ、生活科授業研究、初等授業研究、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論A、教育実践演習A・B、教職実践演習、教育学演習ⅠB、学校教育実践研究、教育実践事例研究、就職セミナー、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイダンス、教職自主ゼミ、卒論副査

(3) その他

- <高木> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、松楠会学内理事、オープンキャンパス(学生指導)、卒業前対策講座担当
- <田崎> 未来からの留学生「音読教室」講座担当、卒業前対策講座担当
- <佐藤> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「LEGOで遊ぼう！」講座担当、松楠会学内理事、卒業前対策講座担当

2 学外における活動

(1) 研究業績

- <高木>
(編著者)『教員としてのホップ・ステップ～磨こう 授業力・学級経営力』(美巧社、2017.03(予))
(学会発表等)「交流人事教員としての教職支援へのかかわり」
(平成28年度日本教育大学協会四国地区研究集会「愛媛集会」2016.12)
- <田崎>
(編著者)『教員としてのホップ・ステップ～磨こう 授業力・学級経営力』(美巧社、2017.03(予))
(学会発表等)「香川大学における教職支援」(平成28年度 交流人事教員交流研究集会2016.09)
「国語科教育における児童生徒主体の学びとアクティブ・ラーニング」(文教大学教育課題解決セミナー2016.10)
「国語科教育における児童生徒主体の学びとアクティブ・ラーニング」(平成28年度香川大学国文学会2016.12)
- <佐藤>
(編著者)『教員としてのホップ・ステップ～磨こう 授業力・学級経営力』(美巧社、2017.04(予))

(論文等) 「道徳授業における情報モラル教育の資料開発に関する一考察(1)」
(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第34号』2017.03(予)) (共著)

(2) 社会的活動

<高木>

(委員等) 香川県がん教育推進委員

(講演等) 放送大学面接授業講師(2016.4)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2016.05、07、08)、
香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会(2016.10)、松楠会大川支部講演会講師
(2016.8.21)

(その他) 大学入試センター試験(監督)、「音読劇上演会」指導・引率

<田崎>

(講演等) 放送大学面接授業講師(2016.10)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2016.05、07、08)、
坂出・綾歌国語同好会講師(2016.06)、高松市立弦打小学校校内研修指導・助言(2016.05、
07、11、12)、高松市立仏生山小学校校内研修指導・助言(2016.10)、高松市立牟礼南小学
校校内研修指導・助言(2016.11)、高松市立川岡小学校校内研修指導・助言(2016.11、12)

(その他) 大学入試センター試験(監督)、日本カリキュラム学会香川大会(事務局長)、全国小・
中学校作文コンクール(香川県審査)、「音読劇上演会」指導・引率、

<佐藤>

(講演等) 高松市立一宮小学校校内研修講師(2016.07)、高松市立栗林小学校校内研修会講師(2016.10)、
香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会

(その他) 大学入試センター試験(監督)、日本道徳教育学会四国支部第1回学習会

大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

平成 28 年度は、保健体育の上野耕平教員が高松市立紫雲中学校で研修に取り組みました。

研修を行った大学教員

准教授	上野耕平（保健体育科教育学）
研修校	高松市立紫雲中学校
研修日	平成 28 年 11 月 8 日（火） 11 月 9 日（水） 12 月 6 日（火） 12 月 7 日（水）

平成28年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日
講義 I	聴覚障害者の心理・生理及び病理	66名	8月2日(火)・3日(水) (講義16時間)
講義 II	特別支援教育の基礎理論	79名	8月5日(金)・6日(土) (講義16時間)
講義 III	重複・発達障害者の教育総論	88名	8月17日(水)・18日(木) (講義16時間)
講義 IV	視覚障害者の教育課程及び授業法	57名	8月22日(月)・23日(火) (講義16時間)

3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	おエンターション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 II	8/5・6	特別支援教育の基礎理論	准教授 小方 朋子
講義 III	8/17	重複・発達障害者の教育総論	教授 武藏 博文
	8/18		教授 武藏 博文 准教授 小方 朋子

香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭 2 種免許状（外国語（英語））

文部科学省委託事業（平成 28 年度小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業）として 13 講座、14 単位を開設した。

(1) 実施状況

単位習得者数（県別）

講座名	実施日	単位数	香川県	徳島県	高知県	岡山県	兵庫県	奈良県	東京都	栃木県	計
生徒指導論	8月17日、8月18日	1	12		1						13
学校教育相談学	8月20日、8月21日	1	15				2				17
英語科教育法概説	9月3日、9月4日、9月18日、9月19日	2	16				3				19
英文法概論	11月26日、12月3日	1	19		1	1	3	1			25
英語史概論	12月26日、12月27日	1	29		1	2	4	2	1		39
英語音声学概論	8月27日、8月28日	1	19		1		1				21
英米文学史概論	12月10日、12月17日	1	25		1	2	2	1			31
英語圏児童文学	1月6日、1月7日	1	29		1	1	1	2		1	35
英会話基礎	9月24日、10月1日	1	26			1					27
英作文基礎	10月8日、10月9日	1	21	1	1	1	2	1			27
日英のことばと文化	10月22日、10月23日	1	22		1	1	2	1		1	28
異文化コミュニケーション	11月13日、11月20日	1	19	1			3	1			24
異文化理解概説	10月30日、11月5日	1	26		1	1					28
計			278	2	9	10	23	9	1	2	334

(2) 取得単位数

香川県内から 42 名の受講者があり、内 3 名が全 13 講座 14 単位を受講した。

(人)

取得単位数	香川県	徳島県	高知県	岡山県	兵庫県	奈良県	東京都	栃木県	計
14	3								3
13	2								2
12	4								4
10	2								2
9	2		1						3
8	3								3
7	7			1	1	1			10
6	4				2				6
5	2								2
4	3				1				4
3	4			1					5
2	3	1			1	1		1	7
1	3				1		1		5
計	42	1	1	2	6	2	1	1	56

1. 平成28年度香川大学教員免許状更新講習実施状況

(平成28年 6～11月)

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習の人数は延べ数)
必修講習	5	638	553
選択必修講習	15		536
選択講習	53		1,365
廃止講習	6	合計	2,454

開設日	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月18日(土)	【必修】1)教育の最新事情	櫻井 佳樹	161	161
		坂井 聡		
6月19日(日)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-1	加野 芳正	39	39
		山岸 知幸		
6月19日(日)	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働	山本 珠美	60	60
6月25日(土)	【選択】食生活と健康	加藤 みゆき	15	15
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	19	19
	【選択】国語科表現教育演習	佐藤 明宏	30	30
	【選択】VBAによるフォームコントロールプログラム講座	宮崎 英一	10	10
	【選択】ヨーロッパの時代区分をめぐる諸問題	中谷 博幸	25	25
	【選択】初歩の陶芸	倉石 文雄	16	16
6月26日(日)	【選択】器楽演奏のヒント	柳井 修	14	14
		青山 夕夏		
	【選択】性はなぜあるのか?	松本 一範	23	23
		篠原 渉		
【選択】文化人類学	緒方 宏海	100	100	
【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	石川 雄一	16	16	
7月25日(月)	【必修】2)教育の最新事情	大久保 智生	122	122
		柳澤 良明		
7月26日(火)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	25	25
	【選択必修】教育相談について考える	宮前 義和	80	80
7月27日(水)	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	31	31
	【選択】老荘思想について考える—固定観念からの解放—	池田 恭哉	24	24
	【選択】アントレプレナーシップ教育	大北 健一	18	18
7月28日(木)	【選択】生活習慣と健康	宮武 伸行	70	70
7月29日(金)	【選択】食料生産と自然エネルギー	松村 伸二	14	14
8月5日(金)	【必修】3)教育の最新事情	有馬 道久	151	151
		岡田 涼		
	【選択】酵素のかたちを見る —立体構造解析の基礎—	櫻庭 春彦	7	7
	【選択】在宅療養高齢者とその家族支援	松井 妙子	34	34
		沖 亜沙美		
【選択】子どもの発育発達と体力	山神 真一	43	43	
【選択】少子高齢社会における生活経営	時岡 晴美	25	25	
8月8日(月)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-2	葛城 浩一	39	39
		加野 芳正		
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	22	22
	【選択】憲法判例を読む	岸野 薫	20	20
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	51	51
	【選択】はじめての特別支援教育	小方 朋子	60	60
	中島 栄美子			
【選択】日本古典文学を読む—萬葉集を中心に、源氏・伊勢を考える—	西山 弘子	29	29	
8月9日(火)	【選択必修】道徳教育の充実	植田 和也	39	39
	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	30	30
	【選択】救急災害医療コース(心停止、脳卒中、災害)	黒田 泰弘	55	55
	【選択】社会と歴史の教育	鈴木 正行	40	40
	【選択】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	高橋亨輔	20	20
	井面仁志			

開設日	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月10日(水)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組みー3	加野 芳正 山岸 知幸	40	40
	【選択必修】授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	12	12
	【選択】哲学教育とこども哲学	三宅 岳史	25	25
	【選択】理科教育の基本的なところを改めて検討する	北林 雅洋	30	30
8月23日(火)	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	4	4
	【選択】英語科における異文化理解—教材から言語文化情報を読み取る	竹中 龍範	26	26
	【選択】幼稚園教員の転換点について考える	片岡 元子	29	29
	【選択】思想史を学ぶ意義を考える	石川 徹	14	14
	【選択】算数教育における概念形成-図形・分数を例に-	長谷川 順一	37	37
8月24日(水)	【選択】日常生活から法律問題を考える	前原 信夫	20	20
	【選択】疾患を持ちながら生活する子ども達	谷本 公重 鈴木 智子 鈴木 麻友	15	15
	【選択】特別支援教育	西田 智子	85	85
	【選択】体育授業と学級づくりの実際	野崎 武司	30	30
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験	高木 由美子	16	16
	9月3日(土)	【必修】4)教育の最新事情	毛利 猛 宮前 淳子	93
9月4日(日)	【選択必修】道徳教育	七條 正典	30	30
	【選択必修】ニュージーランドにおける中・高等学校での外国語教育:過去と現在	バテン ポール	11	11
9月10日(土)	【選択】細菌を用いた基礎的な遺伝子工学実験	木村 義雄	6	6
	【選択】戦後文学と宗教	渡邊 史郎	23	23
9月11日(日)	【選択】数学ー中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	10	10
	【選択】「生活と環境」の授業研究	妹尾 理子	14	14
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	10	10
	【選択】地球とその歴史を探る	寺林 優	15	15
	【選択】ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	28	28
9月24日(土)	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	15	15
10月1日(土)	【必修】5)教育の最新事情	松井 剛太 松本 博雄	26	26
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携	清國 祐二	47	47
10月2日(日)	【選択必修】発達障害と教育相談	武藏 博文	39	39
	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	15	15
	【選択】表現を探る-楽曲の分析を通して-	岡田 知也	8	8
10月9日(日)	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	30	30
	【選択】身の回りの化学物質・化学製品	深田 和宏	10	10
	【選択】ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	25	25
10月23日(日)	【選択】数学 -- 中学・高校数学からの若干の逸脱、初等整数論を中心に	高野 啓児	9	9
	【選択】理科に必要な思考操作能力の発達を促すイギリス型の授業の実習	笠 潤平	7	7
11月12日(土)	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→やってみよう！	松下 幸司	23	23
計			2454	2454

廃止講習(一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習)

8月8日(月)	【選択】プログラミング言語の最新動向
8月10日(水)	【選択必修】わが国の英語教育ーその歴史と現状ー
8月10日(水)	【選択】実数論
9月10日(土)	【選択】国際貿易の基礎理論:比較優位の考え方
10月2日(日)	【選択必修】初等教育における第二言語(英語)習得支援を認知言語学から考える。
10月8日(土)	【選択】会計の基礎と国際的動向

県別申込状況 (人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28
香川	539	578	531	510	569

県外

徳島	11	7	10	13	14
愛媛	9	24	17	35	21
高知	3	3		7	4
岡山	10	1	4	17	12
広島			1	3	3
その他	13	6	19	19	15
小計	46	41	51	94	69
合計	585	619	582	604	638

(年度別)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
受講申込者数	175	781	561	717	585	619	582	604	638
必修	87	514	473	595	497	508	497	554	553
選択必修									536
選択(延べ)	103	1632	1341	1618	1391	1525	1388	1,369	1,365

2. 平成29年度 教員免許状更新講習計画

開設期間	領域	講習名	定員	対象職種
6月4日(日)	必修	【必修】1)教育の最新事情	150	
6月10日(土)	選択必修	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働	40	教,養,栄
6月10日(土)	選択	【選択】篆刻 一印章の制作一	24	教
6月10日(土)	選択	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	25	教
6月10日(土)	選択	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	30	教
6月10日(土)	選択	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法とリコーダー演奏)	12	教
6月11日(日)	選択必修	【選択必修】学生のモチベーションを高めるカリキュラム開発:タスクベース?プロジェクトベース	20	教
6月11日(日)	選択必修	【選択必修】visual programmingによる学校における情報教育	10	教
6月11日(日)	選択	【選択】衣生活の管理	16	教
6月11日(日)	選択	【選択】中国における三教(儒仏道)の交渉-他者をどう受容するのか-	30	教
6月17日(土)	選択必修	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-1	40	教,養,栄
6月17日(土)	選択必修	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在	40	教
6月17日(土)	選択	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	60	教,養,栄
6月18日(日)	選択	【選択】アントレプレナーシップ教育	100	教
6月24日(土)	選択必修	【選択必修】発達障害と教育相談	30	教,養
6月24日(土)	選択	【選択】経済分析と統計学:相関から回帰分析へ	20	教
6月24日(土)	選択	【選択】理科に必要な思考操作能力の発達を促すイギリス型の授業の実習	20	教
7月1日(土)	選択必修	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	30	教,養,栄
7月1日(土)	選択	【選択】国語科表現教育演習	30	教
7月1日(土)	選択	【選択】植物の進化研究の最前線	20	教
7月1日(土)	選択	【選択】海洋の生物生産と環境問題	30	教,栄
7月1日(土)	選択	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	20	教
7月2日(日)	必修	【必修】2)教育の最新事情	150	
7月8日(土)	選択必修	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	30	教
7月8日(土)	選択	【選択】プログラミング言語の最新動向	25	教
7月8日(土)	選択	【選択】初歩の陶芸	16	教
7月8日(土)	選択	【選択】数や図形の見方の発展	25	教
7月9日(日)	選択必修	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-2	40	教,養,栄
7月9日(日)	選択必修	【選択必修】初等教育における第二言語(英語)支援を認知言語学や国語科教育・他教科から考える。	40	教
7月9日(日)	選択	【選択】社会的投資について考える	30	教
8月1日(火)	必修	【必修】3)教育の最新事情	120	
8月9日(水)	選択必修	【選択必修】学教教育について(不登校)	50	教,養
8月9日(水)	選択必修	【選択必修】学校カウンセリングの基本	40	教,養,栄
8月9日(水)	選択	【選択】刑事司法と社会	30	教
8月9日(水)	選択	【選択】日本古典文学-歌を讀んでみましょう-	30	教
8月9日(水)	選択	【選択】実数論	25	教
8月9日(水)	選択	【選択】少子高齢社会における生活経営	25	教
8月10日(木)	選択必修	【選択必修】わが国の英語教育-歴史を踏まえつつ、その現状認識を-	40	教
8月10日(木)	選択	【選択】国際社会における法制度と日本	30	教
8月10日(木)	選択	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	30	教
8月10日(木)	選択	【選択】小児保健	30	教,養,栄
8月10日(木)	選択	【選択】児童の遠見視力低下と生活習慣	20	教,養
8月10日(木)	選択	【選択】社会と歴史の教育	40	教
8月10日(木)	選択	【選択】はじめての特別支援教育	30	教,養,栄
8月17日(木)	必修	【必修】4)教育の最新事情	150	
8月18日(金)	選択	【選択】体育授業と学級づくりの実際	32	教
8月18日(金)	選択	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	20	教
8月19日(土)	選択	【選択】映像から考えるヒトと自然と地域のネットワーク	30	教
8月21日(月)	選択	【選択】資源作物の利用の化学	30	教,栄
8月21日(月)	選択	【選択】農薬を通して環境・食を考える	30	教,栄
8月21日(月)	選択	【選択】職業教育を考える	12	教

開設期間	領域	講習名	定員	対象職種
8月22日(火)	選択必修	【選択必修】授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	30	教,養,栄
8月22日(火)	選択	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	25	教
8月22日(火)	選択	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	100	教,養
8月22日(火)	選択	【選択】英語科における異文化理解—教材から言語文化情報を読み取る	30	教
8月23日(水)	選択	【選択】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	20	教
8月23日(水)	選択	【選択】地球とその歴史を探る	15	教
8月23日(水)	選択	【選択】特別支援教育	30	教,養,栄
8月23日(水)	選択	【選択】疾患を持ちながら生活する子ども達	15	教,養,栄
8月23日(水)	選択	【選択】幼稚園教員の転換点について考える	20	教
8月23日(水)	選択	【選択】科学史をふまえた理科教育論	30	教
9月3日(日)	選択必修	【選択必修】道德教育	30	教
9月3日(日)	選択	【選択】数学—中・高の教材に潜む高等数学	30	教
9月3日(日)	選択	【選択】英語到達度テストと段階別評価	30	教
9月10日(日)	選択必修	【選択必修】道德教育の充実	50	教,養
9月10日(日)	選択	【選択】衣・食・住の生活文化と環境	15	教
9月10日(日)	選択	【選択】ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	25	教
9月10日(日)	選択	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	30	教
9月23日(土)	選択必修	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み—3	40	教,養,栄
9月23日(土)	選択	【選択】体験型植物科学入門	20	教
9月23日(土)	選択	【選択】ESDから始める道德教育	30	教
9月23日(土)	選択	【選択】子どもを取り巻く環境（メディア・生活習慣・身体活動等）と保健に関わる話	30	教,養,栄
9月30日(土)	必修	【必修】5)教育の最新事情	80	
10月1日(日)	選択必修	【選択必修】学校・家庭・地域の連携	50	教,養,栄
10月1日(日)	選択	【選択】絵画（木炭デッサン）制作	10	教
10月1日(日)	選択	【選択】表現を探る -楽曲の分析を通して-	8	教
10月1日(日)	選択	【選択】天文と気象に関する話題について	16	教
10月8日(日)	選択	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	30	教
10月8日(日)	選択	【選択】日本社会史	60	教

注意：応募人数が5名に満たない講座は、講習を廃止することがあります。日程・会場は変更することがあります。

開設計画

領域	講習数	定員（人）
必修講習	5	650
選択必修講習	18	650
選択講習	56	1,596

思考力等の育成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立下笠居小学校	平成 28 年 11 月 28 日 (月) 13:00 ~ 16:30	教授 坂井 聡	生活科及び総合的な学習の時間について講話
多度津町立多度津小学校	平成 28 年 10 月 28 日 (金) 13:00 ~ 16:30	教授 山本 茂喜	思考力等の育成についての講話

※ モデル校の研究内容

- 高松市立下笠居小学校
研究主題 他とかかわり合いながら、主体的に学ぶ児童の育成
～学びの質を高める「ことばの力」をはぐくみながら～
- 多度津町立多度津小学校
研究主題 主体的に学習し、思考し、確かな学力をもつ児童を育てる

学習習慣形成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、指導方法の工夫改善に加えて、家庭における生活リズムの改善や家庭学習の習慣化が重要であり、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣や学習習慣を形成することが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習習慣の形成に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、学校での授業や活動が学習習慣の確立につながる指導及び家庭や地域との連携の在り方等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立 三溪小学校	平成 28 年 8 月 30 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00	教授 佐藤 明宏	学習習慣の形成に関する講話
	平成 28 年 11 月 17 日 (木) 15 : 30 ~ 16 : 30	教授 佐藤 明宏	香川の教育づくり発表会に向けた提案についての指導

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立三溪小学校

研究主題 進んで学び ともに高めあう子どもの育成
～学びに向かう力を育む授業の工夫と家庭学習との連携をめざして～

学習意欲向上モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習意欲の向上に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、興味・関心を生かし、学習意欲を喚起する授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立 木太小学校	平成 28 年 6 月 2 日 (木) 15:00～16:35	准教授 岡田 涼	学習意欲の向上に関する講話
	平成 28 年 9 月 1 日 (木) 14:00 ～ 16:35	准教授 岡田 涼	生活科の研究授業後の指導
	平成 28 年 12 月 1 日 (木) 14:00 ～ 16:35	准教授 岡田 涼	理科の研究授業後の指導
観音寺市立 一ノ谷小学校	平成 28 年 7 月 29 日 (金) 9:30 ～ 12:00	准教授 岡田 涼	学習意欲の向上に関する講話

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立木太小学校

研究主題 「ねがい」に向かって主体的に学び、自らを高める児童の育成
～木太小学習スタイルの充実による自己効力感の向上を目指した～

■ 観音寺市立一ノ谷小学校

研究主題 学ぶ楽しさ、分かる喜びを実感できる授業づくり

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	片岡 元子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	金子 之史	香川大学教育学部名誉教授 理科教育

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（8市町21園）

	園 名	訪問日時	研修内容	支援員
1	坂出市立加茂幼稚園	H28年6月3(金)	保育カンファレンスの充実	金子之史先生
2	三豊市立豊中幼稚園	H28年6月7(火)	職員の同僚性・園内外・周辺の見直し	金子之史先生
3	まんのう町立仲南こども園	H28年6月8(水)	主体的に遊びこめる環境づくり	片岡元子先生
4	高松市立弦打幼稚園	H28年6月14(火)	主体的に活動する姿の育成	金子之史先生
5	まんのう町立琴南こども園	H28年6月15(水)	じっくりと遊びこむ空間・時間・仲間づくり	片岡元子先生
6	丸亀市立飯山幼稚園	H28年6月29(水)	主体的に遊びこめる援助 こども園移行への準備	金子之史先生
7	まんのう町立高篠こども園	H28年7月1(金)	同年齢・異年齢幼児のかかわり	松本博雄先生
8	三豊市立辻幼稚園	H28年7月12(火)	特別支援教育担当者の支援	金子之史先生

9	さぬき市立さぬき北幼稚園	H28年9月1(木)	遊びの意欲を高める指導について	松本博雄先生
10	高松市立木太幼稚園	H28年9月15(木)	自ら心や体を動かして遊ぶ環境構成や教材	金子之史先生
11	綾川町立粉所幼稚園	H28年9月16(金)	協同性をはぐくむ異年齢活動と教育課程	松本博雄先生
12	まんのう町立四条こども園	H28年9月29(木)	こども園としての保育・教育活動の充実	片岡元子先生
13	丸亀市立城辰幼稚園	H28年10月4(火)	環境づくりや遊びの展開・有効な園内研修	金子之史先生
14	高松市立山田幼稚園	H28年10月18(火)	5歳児の幼児理解をふまえた集団と個の育ち	片岡元子先生
15	まんのう町立長炭こども園	H28年10月19(水)	園内研修の確保、職員の資質向上と共通理解	松本博雄先生
16	東かがわ市立白鳥幼稚園	H28年10月21(金)	互いを認め合う仲間づくり、職員連携	金子之史先生
17	高松市立香西幼稚園	H28年11月4日(金)	じっくりと遊びに取り組む場の保障	松本博雄先生
18	まんのう町立満濃南こども園	H28年11月9日(水)	若年教員が多い園の園内研修	片岡元子先生
19	さぬき市立長尾幼稚園	H29年1月17日(火)	一人一人の遊び(内面)の読み取りと育ち	金子之史先生
20	高松市立鬼無幼稚園	H29年1月25日(水)	協同的な遊びの保育実践	金子之史先生
21	高松市立国分寺北幼稚園	H29年2月1日(水)	5歳児の協同性を育む体験 接続カリキュラム	金子之史先生

豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

趣旨

道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実と共に道徳の時間の指導の充実が求められている。平成 27 年 3 月には学習指導要領の一部改訂が行われ、道徳は特別の教科として位置付けられた。教科化を踏まえ、生命を大切にする心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳の時間の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切にしていく意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として各学校の教育課題や希望により派遣し、より体験的、感動的な道徳教育を展開する。
 - ◆平成 28 年度 149 校に派遣予定（6～2 月）

道徳教育指導力向上研修

- これまでに作成した教材や「私たちの道徳」を活用した授業の板書計画作成と授業実践の交流等、道徳教育の充実に関する研修会を開催する。
 - ◆平成 28 年 6 月 21 日（火）、24 日（金）県教育センター
講話：七條正典教授、植田和也准教授、教材を活用した演習
 - ◆平成 29 年 1 月 17 日（火）、20 日（金）県教育センター 中央研修等報告、国の方針の伝達、部会別協議

道徳教育地域支援事業（国）

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を印刷・児童生徒に配布することで、道徳の時間の学習等での積極的な活用を推進する。
 - ◆ 7 月に配布
 - 道徳教育研究推進校における実践研究（平成 28 年度研究推進校 高松市立香東中学校、坂出市立坂出中学校、三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校、高松市立大野小学校、さぬき市立志度小学校）
 - ◆ 第 1 回推進会議（平成 28 年 6 月 3 日）での指導講話：植田和也准教授、齋藤嘉則准教授

心のメッセージコンクール（新規）

- 温かな言葉をかけたりかけられたりした経験等を短い文章と絵で表現した「心のメッセージ」を募集し、児童生徒の自尊感情の高揚と道徳的实践や心情と結びついた道徳教育の一層の推進を図る。
 - ◆ 審査会 平成 28 年 10 月 31 日（月）県教育センター 審査委員長 植田和也准教授

キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

イ 内容

(1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の主體的な取組を促進する。

(2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

ウ 香川大学との連携について

平成28年度は、8校20時間11名の香川大学の教職員を社会人講師として県立高校に招聘した。教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な学習の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

2 授業の公開・開講状況・受講状況

平成 27 年度の第 1 学期には、「子育ての今と昔」「歌唱法基礎 A」「工芸 I A 及び工芸 I B」の 3 科目が、第 2 学期には「ヒトの多様性の心理学」「生命と環境の化学」「福祉住環境論」の 3 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 もしくは 18:00～21:10 に行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業として、「新しい教職への扉をひらく」を実施した。

「新しい教職への扉をひらく」を 98 名が受講した。

3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入料（1,000 円程度）が望ましい。

5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

学生ボランティア派遣事業

1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

学生ボランティア派遣状況（H28.12.5現在）

	27年度						28年度					
	登録(継続含む)			派遣(継続含む)			登録(継続含む)			派遣(継続含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	1	11	12	0	0	0	1	0	1	1	0	1
2年	20	47	67	0	7	7	0	3	3	0	3	3
3年	5	22	27	0	11	11	2	6	8	2	6	8
4年	4	13	17	4	13	17	0	4	4	0	4	4
院生等	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0
計	32	93	125	5	32	37	3	13	16	3	13	16

派遣先

	27年度			28年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	43	28	13	41	22	19
中学校	4	1	3	2	1	1
教支援セ	2	0	2	2	0	2
その他	12	12	0	12	12	0
計	57	43	18	57	35	22

派遣要請に対する派遣率 75.4%

派遣要請に対する派遣率 61.4%

ユーチューブで紹介ビデオを配信しています。
「ユーチューブ 香川県 放課後子ども教室」で検索してください。



放課後子供教室で 子どもたちの居場所づくりの お手伝いをしませんか？



学校では見せない子
どものイキイキとした
表情が見られます!!

香川県教育委員会事務局
生涯学習・文化財課

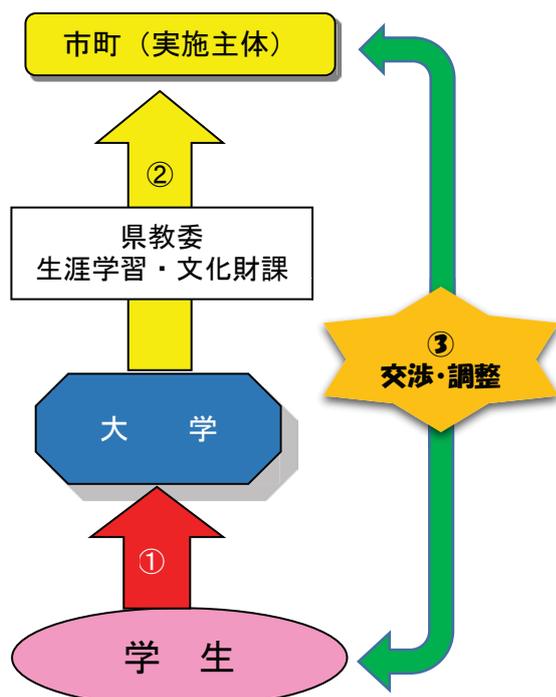
放課後子供教室（文部科学省所管事業）の活動を支援する人材確保対策として、香川大
学に学生ボランティアの派遣について依頼を行います。



放課後子供教室とは…

放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、全ての
子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域
の方の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地
域住民との交流活動等の機会を提供する事業です。

ちなみに…、放課後児童クラブ（いわゆる学童保育）
は厚生労働省所管事業です。



【ボランティアを開始するまでの流れ】

まずは登録

- ① ボランティア登録
ボランティアを希望する学生は、「学生ボランティア登
録申込書」に必要事項（「放課後子供教室」の欄へのチェ
ック、希望する子供教室名の記入など）を記入し、学部の
教務係に提出します。
*「連絡先」に記入する電話番号・携帯電話番号は、必ず
連絡が取れる番号をお願いします。
- ② 情報提供
登録情報は、大学から県教委を通じて関係する市町へ提供さ
れます。
- ③ 交渉・調整
登録情報を受け取った市町から、後日、連絡があります。参
加日時等について市町の担当者と調整を行います。

豊かな人権感覚を育てる事業「出会い・ふれあい・発見隊」学生ボランティア募集

1 目的

- 県内の小・中・高校生が、「出会い・ふれあい・発見隊」を結成し、人権尊重社会の実現に向けて努力している人々と出会い、そこでの豊かな体験を通して、人権感覚を高め、自分の生き方を豊かに創り上げていくための力を身に付けさせる。
- 県内の教員（若年者）や教員をめざす学生（学生ボランティア）が、「出会い・ふれあい・発見隊」と一緒に活動することで、人権教育の指導内容や方法についての資質の向上を図る。

2 主催 香川県教育委員会事務局人権・同和教育課（以下「人権・同和教育課」）

3 参加及び申し込み手続き

(1) 参加対象者

- ・県内小・中学校、高等学校に在籍する児童生徒のうち参加を希望する者 35名程度（先着順）
- ・小学1～3年生の保護者及び参加を希望する保護者
- ・県内小・中学校、高等学校の教員（特に若年者）のうち参加を希望する者 若干名
- ・教員をめざす学生のうち参加を希望する者 10数名
- ・穴吹ビジネスカレッジ日本語学科の留学生のうち参加を希望する者 10名程度

(2) 申し込み手続き

- ・参加を希望する者は、人権・同和教育課に応募用紙を提出する。
- ・応募のあった保護者、教員、学生は、原則として参加者とするが、応募状況によっては人権・同和教育課において調整を行う場合がある。また、過半数以上参加できる者に限る。

4 活動日時・場所・内容等（参考；平成28年度）

- ① 8月6日（土）香川県教育センター（現地集合）
＜でけでけ隊の皆さんに、よさこいを教えてもらおう！＞
- ② 8月27日（土）かがわ総合リハビリテーションセンター（現地集合）
＜障害のある人とスポーツ等を通して交流しよう！＞
- ③ 9月24日（土）国立療養所大島青松園（高松港集合）
＜入所されている方が得意としていることを一緒に体験しよう！＞
- ④ 10月29日（土）五色台少年自然センター（高松駅集合）
＜外国の人たちと、うどんづくりやゲームを通して交流しよう！＞
- ⑤ 12月3日（土）サンポートホール高松（現地集合）
＜「みんなで考える人権のつどい」を成功させよう！＞



第 15 回「未来からの留学生」を終えて

実施委員長 小方朋子

2016年10月16日（日）に、第15回「未来からの留学生」を開催しました。曇り空だったので太陽黒点の観察はできませんでしたが、雨が落ちることもなく、無事一日終えることができました。用意したみらいちゃんの缶バッジ 800 個をすべてお渡しできたので、おそらく 1000 人を超える「未来からの留学生」とそのご家族が来てくださったと思われま

す。今年は、16 の事前申込講座と、14 の自由参加型講座を開講しました。講座を任されているのは主に 2 年生です。構想から準備までかなり時間をかけてがんばっていました。

お昼休みには「附属高松小学校吹奏楽クラブ&ハーモニー隊」が楽しい演奏を披露してくれました。ポスターは美術領域の井下智香子さんが製作しました。また 1 年生の有志たちがおそろいの上着を着て、たくさんのお客様たちを案内し、また第 2 回目のオープンキャンパスとして来場してくれた高校生たちの案内役相談役として活躍しました。

たくさんのごんばりのおかげで素敵なフェスティバルとなりました。皆様のご協力に感謝します。



平成28年度特別支援教育コーディネーター協議会

1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	7月21日	全県	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	358名
県立	9月29日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	42名
地域別	9月27日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	102名
	10月14日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	59名
	10月18日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	19名
	11月2日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	35名
	11月25日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	37名
	12月6日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	61名

3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
7月21日	特別支援教育概論	准教授 小方 朋子
	発達とコミュニケーション	教授 坂井 聡
9月29日	高等学校における課題について	教授 坂井 聡
9月27日	学習指導 算数学習の困難とその指導	教授 長谷川 順一
10月14日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武藏 博文
10月18日	学校支援体制と外部機関との連携	教授 宮前 義和
11月25日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	准教授 中島 栄美子
12月6日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平

香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（学生向け小学校 CST・教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。平成 28 年度の主な取組みは以下のとおりである。

■受講者

(1) 学生

小学校 CST=83 名（継続 74 名、新規 9 名）

平成 28 年度前期修了 36 名、後期修了予定 28 名
 （平成 24 年度修了 37 名、平成 25 年度修了 59 名、
 平成 26 年度修了 59 名、平成 27 年度修了 66 名）

教材 CST=28 名（継続 7 名、新規 21 名）

平成 28 年度前期修了 0 名、後期修了予定 6 名
 （平成 25 年度修了 1 名、平成 26 年度修了 6 名、平成 27 年度修了 7 名）

(2) 現職教員

教材 CST=31 名（継続）

平成 28 年度前期修了 0 名、後期修了予定 0 名
 （平成 25 年度修了 5 名、平成 26 年度修了 13 名、平成 27 年度修了 1 名）

1. CST 活動の推進

	日付	内容	場所
1	高松地区（高松市） 2016 年 7 月 29 日 高松市以外の地区 2016 年 8 月 5 日	1-1 小学校理科授業スキルアップ教室 <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科室の管理・運営に関する基本事項、安全確保に関する研修 ・ 実験、観察の基本技能 ・ 観察・実験をともなう学習の指導について 電熱線の発熱等 示温（サーモ）インクの活用 道管観察等 月の満ち欠け等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高松市立新番丁小学校 ・ 香川県教育センター

2	2016年11月19日	1-2 高松塾 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の基本的な技能について ・第4学年「水のすがたとゆくえ」 ・第5学年「魚のたんじょう」 ・第6学年「電気の利用」 	高松市立新番丁小学校
---	-------------	--	------------

2. 教材 CST 研修会

2-1 実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2016年5月20日	煮干しを解剖し、内臓を観察した後に、それらを取り出して、台紙に添付し教材標本を作製した。	香川大学
2	2016年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の細胞からDNAを抽出してみよう。 ・「浮力の物語」の教材ぐるぐる鳥を作ろう ・その他 	附属坂出中学校
3	2016年6月24日	天然記念物の化学 ～現象と物質（陸水、熱水、沈殿物）～	香川大学
4	2016年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスバーナーの基本的な使い方 ・金属の融解 ・塩化アンモニウムの再結晶 ・強酸と強アルカリの中和 ・顕微鏡の使い方 	附属高松中学校
5	2016年9月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・黒色火薬による花火の製作 ・炎色反応をより簡単にきれいに演出する方法 	附属坂出中学校
6	2016年10月13日	小学校第4学年「物の体積と温度」と「とじこめた空気と水」の単元における学習内容を日常生活とつないだり活用したりできる教材や授業づくりについて研修を行った。「物の体積と温度」では、金属の体積変化を観察しやすくする実験方法の工夫と合わせて、線路のつなぎ目へと理解を深める教材の紹介があった。「とじこめられた空気と水」では、注射器等の一般的な教材から見いだした物の性質が身の回りの物（エアポットやスプレー等）にどのように活かされているのかを、実際の生活用品を使いながら、確かめていった。	附属坂出小学校

7	2016年10月20日	授業CSTに八木教諭の授業研究を行った。AgICペンを使い、オームの法則について確かめる実験を行った。授業後は、ラウンドスタディの手法にのっとして、授業討議を行った。	附属高松中学校
8	2016年10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・酸、アルカリの教材の紹介 ・OBによるものづくり（風車） ・大学生の三宅による天体の教材の紹介と検討 ・酸性雨のモデル実験の紹介と検討 	附属坂出中学校
9	2016年10月24日	さまざまな自動気象観測装置とその取扱い	香川大学
10	2016年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり（風車） ・溶岩の粘りけと火山の形の実験モデルの提案 ・火成岩の粘りけを生徒実験で確認するための試行実験 ・太陽と星の日周運動のしくみが実感できるモデルの提案 	附属坂出小学校
11	2016年11月22日	タッチパネル式のセンサーシステムを用いて実習を行った。モーションセンサーを使った場合、位置の時間変化を逐次測定しグラフ化することができるのだが、同時に速度と加速度計算し視覚化する事ができ、ツールを用いたその場解析の方法も実習した。また、光センサーと分光器を用いた場合に、蛍光灯や各種放電管あるいはLEDの光の成分を分散曲線をグラフ化することにより視覚的に捉えることも行った。	香川大学
12	2016年12月6日	CST指導者が実際に授業を行い、その授業を参加者が参観した。授業の内容は、再結晶と、カタクチイワシの胃の内容物の観察であった。どちらの授業でも、生徒は顕微鏡を使い、スケッチを行ったが、1分野と2分野で、その取り組み方を比較ができるようにした。授業参観後は、CST指導者が参加者の質問に答える時間をとった。	附属高松中学校
13	2017年2月16日	教材紹介	附属坂出中学校

14	2017年2月23日	教材紹介	附属坂出小学校
----	------------	------	---------

2-2. 理科授業力向上研修

	日付	内容	場所
1	2016年6月17日	・「浮力の物語」1年 ・「曇っていったい何なんだ」2年	附属坂出中学校
2	2016年10月22日	・「水溶液の性質とはたらき」6年	附属坂出小学校
3	2017年1月26日	・「見つけて生かそう 磁石の秘密」3年	附属坂出小学校
4	2017年1月27日	・「つくって ためて 変換して 大切に使おう わたしたちの電気」6年	附属坂出小学校
5	2017年2月2日	・「空気の性質～熱気球で科学する～」4年	附属高松小学校
6	2017年2月3日	・「Ice Steam Water～水のすがたとゆくえ～」4年 ・「物のとけ方」5年	附属高松小学校

3. 小学校 CST 小学校理科基本実験修得コース

・ふりこのきまり

4月25日、4月27日、5月6日、12月12日

・もののおもさをくらべよう

5月9日、5月11日、5月13日、12月2日

・野外の食物を観察しよう

5月30日、6月1日、6月3日、10月24日、12月13日

・魚の血管と血液の流れの観察

6月6日、6月8日、6月10日

・望遠鏡をもちいた天体観測

5月11日、5月12日、5月13日、5月16日、5月17日、5月18日、12月5日

・天気の変化を測ってみよう

7月4日、7月6日、7月8日、1月26日、2月10日

・ヨウ素でんぷん反応

5月16日、5月18日、5月20日、12月5日、1月20日

・手回し発電機と光電池

6月27日、6月29日、7月1日、12月16日

・試薬の希釈と廃液の処理（中和）の方法

6月20日、6月22日、6月24日、11月28日、12月2日

・理科室の使い方

附属高松小学校 : 7月8日、7月13日

附属坂出小学校 : 7月7日、2月14日、2月21日

資料 1 7

平成 2 8 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
 道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発～「かがわ道徳ラボ」を核として～

1 事業実施状況報告

事業内容	日時	開催場所	参加人数	対象
①かがわ道徳ラボ公開講座Ⅰ (講義)	平成 28 年 7 月 25 日 (月) 13:00～15:00	香川大学 教育学部	21 名	学校、教育 機関関係者
①かがわ道徳ラボ公開講座Ⅱ (講義・演習)	平成 28 年 8 月 4 日 (木) 13:00～16:00	香川大学 教育学部	21 名	学校、教育 機関関係者
②平成 2 8 年度教職実践研究交 流会・第 1.回公開講演会 (ワークショップ、講演)	平成 28 年 8 月 6 日 (土) 13:00～17:00	香川大学 教育学部	119 名	学校、教育 機関関係者
③平成 2 8 年度道徳ラボ研修 会・第 2 回公開講演会 (提案、シンポジウム、講演)	平成 28 年 12 月 10 日 (土) 13:00～17:00	香川県教育 センター	120 名	学校、教育 機関関係者
④かがわ道徳ラボ指導者研修会 (講義、グループ協議、質疑応答)	平成 28 年 12 月 12 日 (月) 9:30～10:55	香川県教育 センター	110 名	県内指導主 事

⑤ DVDによる道徳研修教材作成

DVD研修教材は、本道徳ラボに参加できなかった先生方や学校での校内研修、個人研修等で活用していただき、教科化に向けたポイントの理解や疑問や悩みに応えられる内容として企画した。県内の学校への配布用と講演やシンポジウムを記録した貸出用を作成中である。

趣旨：道徳の教科化に向けて校内研修等で、教科化に関する経緯や趣旨の理解を深めるとともに趣旨を踏まえた授業づくり、年間計画等の見直しを進める際に参考となる内容にして、学校現場を支援する教材とする。

⑥ 相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

県内外から、今年度 4 月以降に道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が約 60 件程あった。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、公開講座の個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。内容としては、評価に関わること、今後の教科書や教材について、全体計画・年間計画の修正等の手順やポイント、道徳教育に関する図書の紹介や問合せ、道徳科の趣旨を踏まえた授業づくり、校内研修の工夫や教員への共通理解について、等が主なものである。

* 上記以外にも、本事業の推進に関わり下記のような点についても実施できた。

- 4 月の教員研修センターで実施された研修会に大学教員と県教育センター教員がともに参加することができ、より強固な連携の礎とすることができた。
- 6 月に県教育センターが実施した「道徳教育指導力向上研修」においても、道徳ラボ担当の県教育センター主任指導主事、道徳ラボ担当の大学教員とで内容や当日の演習に用いる手順図を協議し作成することができた。
- 香川県教育委員会の道徳教育地域支援委託事業における研究推進校において、道徳を実践研究している教職大学院生が大学教員とともに授業参観を 3 校において実施できた。

- 香川県小学校教育研究会道徳部会夏季研修会や支部研修会（高松支部、さぬき・東かがわ支部）にも教職大学院生が参加し、実践的な学びの場とすることができた。
- 12月実施の「平成28年度道徳ラボ研修会・第2回公開講演会」に本学教職大学院生の多くが参加でき、教職大学院の授業科目「道徳教育実践研究」で、「かがわ道徳ラボ」から考えるとして、議論された内容を演習的に取り上げて質疑応答やディスカッションを深めることができた。
- 本事業に全て参加した本学教職大学院生が12月に日本教職大学院協会ポスターセッションでの発表、かがわの教育づくりでの展示コーナーによる取組の紹介等で説明や広報を実施できた。

教職大学院 各位
教育関係機関 各位

平成 28 年 6 月 吉日

香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院) 専攻長 有馬 道久
香川県教育センター 所長 藤井 浩史
香川大学教育学部附属教職支援開発センター センター長 七條 正典
香川大学教育学部同窓会 松楠会 会長 小比賀俊彦

平成 28 年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道德教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発」
～「かがわ道德ラボ」を核として～

平成 28 年度 教職実践研究交流会のご案内

テーマ「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携を基盤に」

初夏の候、各教職大学院、教育関係機関におかれましては、充実した教育活動が展開されていることと存じます。平成 28 年 4 月に高度教職実践専攻(教職大学院)を開設し、より充実した内容をめざして、地元香川県の教育力向上に関して、香川県教育委員会と連携のもと、様々な事業や活動を積み上げています。このたびは、独立行政法人教員研修センターの「平成 28 年度教員の資質向上のための研修プログラム開発事業」に採択され、香川県教育センターとの連携のもと、「道德教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発」～「かがわ道德ラボを核として」～を推進することとなりました。

つきましては、下記の通り、香川県教育センター、附属教職支援開発センター、松楠会との共催の形で教職実践研究交流会を開催することとなりました。なお、公開講演会では、前高知大学教育学部附属教育実践総合センター准教授 田邊重任氏に「豊かな心を育む学校づくり」と題してご講演をいただきます。教育に関わる豊かなご経験から、これからの香川の教育を考える上でも、貴重なお話を伺うことができるものと楽しみにしております。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

教育学部北門
周辺



OLIVE SQUARE
オリーブ・スクエア

日 時： 平成 28 年 8 月 6 日 (土) 13:00 ~ 17:00

(12:30より受付を開始します)

場 所： 香川大学幸町北キャンパス **オリーブ・スクエア**

参加費： 無 料

対 象： 教員、教育関係者、大学院生・学部生

教育学部卒業生、教育学研究科修了生、松楠会会員

研究交流会の
終了後に
懇親会を企画
しています

日程および内容

- 13:00~13:15 開会式
13:15~13:30 はじめまして交流（出会いのあいさつ）
13:30~15:00 ワークショップ

A 「道徳科を要とした道徳教育の改善充実に向けて」

教職大学院 准教授 齋藤 嘉則、准教授 植田 和也
附属教職支援開発センター センター長 七條 正典(教職大学院)
香川県教育センター 主任指導主事 伊賀由美子



道徳科を要とした道徳教育の改善充実に向けて、学校現場が抱えている課題や、具体的な改善策について話し合いを行います。

B 「主体的・協働的な学びを促すアクティブ・ラーニング」

教職大学院 教授 野崎 武司、准教授 田崎伸一郎
附属教職支援開発センター 教授 山岸 知幸
香川県教育センター 主任指導主事 長町 裕子
主任指導主事 山地 正樹



子どもたちの主体的・協働的な学びを促す、アクティブ・ラーニングに取り組んでみませんか。

C 「通常の学級に在籍する発達障害等のある子どもの支援に向けて」

教職大学院 教授 武藏 博文、教授 恵羅 修吉
准教授 山本木ノ実
附属教職支援開発センター(兼任) 教授 宮前 義和(教職大学院)
香川県教育センター 主任指導主事 葉山美佳子



発達障害等のある子どもの支援に向けて、具体的にできることを一緒に考えてみませんか。担当者ごとのブースに分かれて、小集団で話し合いを行います。

≪ 15:00~15:15 休憩 ≫

15:15~16:45 講演 「豊かな心を育む学校づくり」

講師 前高知大学教育学部附属教育実践総合センター准教授 田邊 重任 氏

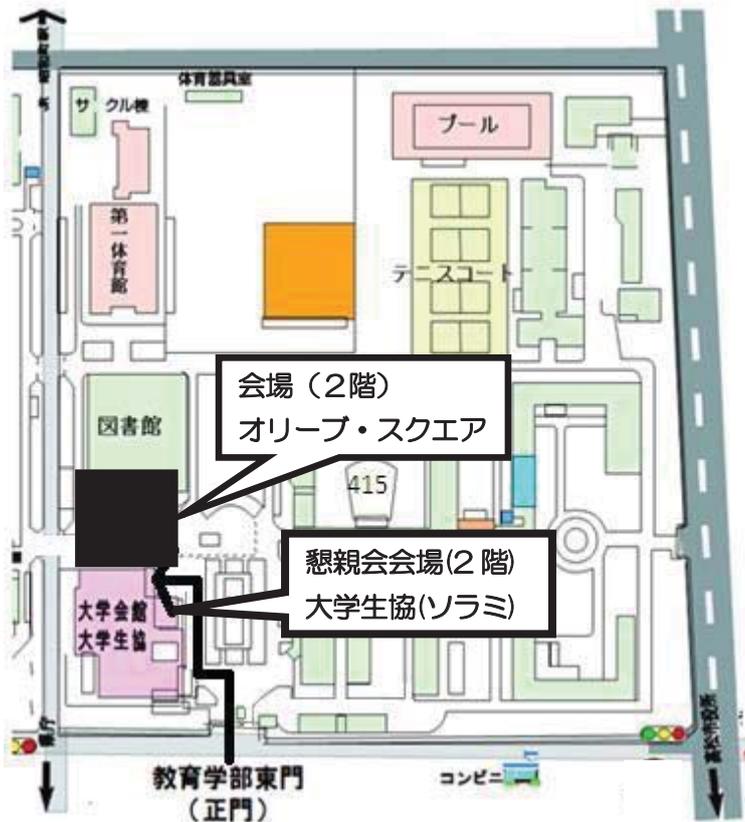
講師の経歴：

高知県教育委員会義務教育課指導主事、高知県教育委員会学校教育課課長補佐、公立中学校長、高知大学教育学部准教授等を経て、現在、高知大学大学院非常勤講師、高知学園短期大学非常勤講師として勤務。その間、文部科学省「中央指導者養成講座」講師、学習指導要領改訂協力委員、道徳教育推進指導資料作成協力委員、高知県道徳教育研究会会長等を務める。

16:45~17:00 閉会式

*17:15~ 大学生協(ソラミ)で「香川大学教育学部と香川県の教育を語る懇親会」を行う予定です。

会場案内



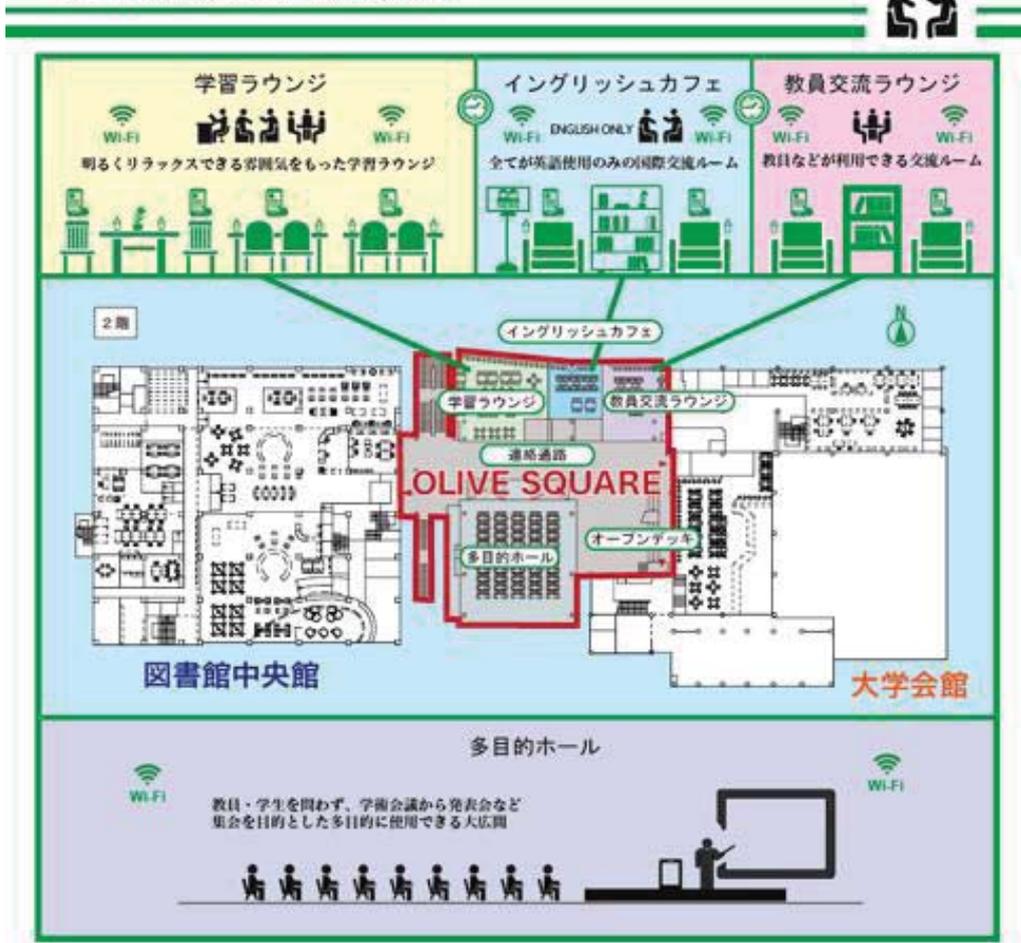
ワークショップは、

- A (道徳教育)：多目的ホール
 - B (アクティブ・ラーニング)：学習ラウンジ
 - C (特別支援教育)：教員交流ラウンジ
- で実施予定です。

開会や閉会の全体会、講演会は、多目的ホールで実施します。

場所が変更になった場合は、当日お知らせします。

OLIVE SQUARE 建物概要



申込方法：参加ご希望の方は、次の参加申し込み票をFAXにてお送りください。
FAX以外に電話やメールでもかまいません。

申込締切：平成28年7月22日（金）午後5時必着

送付先：香川大学教育学部附属教職支援開発センター
FAX：087-832-1689 TEL：087-832-1683
E-mail：jcen@ed.kagawa-u.ac.jp

問い合わせ先：香川大学教職大学院 〒760-8522 高松市幸町1-1
http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~kyoshoku/
参加申し込みや会場等に関して
香川大学教育学部附属教職支援開発センター TEL：087-832-1683
内容等に関して
香川大学教職大学院 准教授 植田 和也 TEL：087-832-1509

備考

※ 駐車可能台数には限りがありますので、ご来場の際は公共の交通機関もしくは学外の駐車場をご利用ください。やむを得ず本学内の駐車場をご希望の方は、あらかじめご連絡ください。

きりとり

香川大学教育学部附属教職支援開発センター 宛

FAX：087-832-1689

平成28年度 教職実践研究交流会
参加申し込み票

参加希望者氏名					
学校名 (所属)					
参加予定	参加ご希望のところに○をつけてください。 <table border="1"><tr><td>ワークショップ(いずれか一つお選びください)</td></tr><tr><td>() A 道徳教育</td></tr><tr><td>() B アクティブ・ラーニング</td></tr><tr><td>() C 特別支援教育</td></tr></table> () 講演会 () 教育を語る懇親会 *会費 3,000 円を当日受付で集めさせていただきます。	ワークショップ(いずれか一つお選びください)	() A 道徳教育	() B アクティブ・ラーニング	() C 特別支援教育
ワークショップ(いずれか一つお選びください)					
() A 道徳教育					
() B アクティブ・ラーニング					
() C 特別支援教育					
連絡先	TEL				
	FAX				
	E-mail				

※ 当会以外の目的で皆様の個人情報を利用することはありません。

平成28年10月10日

全国の教職大学院 各位
県内教育関係機関 各位
県内学校関係者 各位

香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院) 専攻長 有馬 道久
香川県教育センター 所長 藤井 浩史
香川大学教育学部附属教職支援開発センター センター長 七條 正典

平成28年度 道徳ラボ研修会・第2回公開講演会

平成28年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業
「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発」
～「かがわ道徳ラボ」を核として～

中秋の候、全国の教職大学院、県内教育関係機関、県内学校関係者各位におかれましては、充実した教育活動を日々展開しておられることと存じます。さて、香川大学教職大学院では、香川県教育センター、附属教職支援開発センターと連携協力し、標記の研修プログラム開発の一環として、「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて、「道徳ラボ研修会・第2回公開講演会」を下記の通り開催いたします。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成28年12月10日(土) 13:00～17:00
- 2 場 所 香川県教育センター(〒761-8031 高松市郷東町587-1)
- 3 参加費 無 料
- 4 対 象 教員、教育関係者、大学院生・学部生他
- 5 内 容
 - (1) 学校現場からの取り組みの紹介や課題について
宮井 優寿(高松市立川岡小学校長) 秦 照幸(高松市立屋島西小学校長)
白河原 力(東かがわ市立三本松小学校長) 岡 昌代(高松市立協和中学校 指導教諭)
 - (2) シンポジウム：学校現場からの提言及び実施上の課題に応える
堀田 竜次(独立行政法人教員研修センター東京事務所 主任指導主事)
柴原 弘志(京都産業大学教授、元文部科学省教科調査官)
毛内 嘉威(秋田公立美術大学教授、小学校学習指導要領解説協力者)
 - (3) 講演：「特別の教科 道徳」全面実施に向けて
講 師：押谷 由夫(昭和女子大学教授、元文部科学省教科調査官)

<問い合わせ先>香川大学教職大学院 〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~kyosyoku>

香川大学教育学部附属教職支援開発センター事務室 TEL 087-832-1683

香川大学教職大学院 准教授 植田和也 TEL 087-832-1509

かがわ道徳ラボ 指導者研修会（第8回指導主事会において）

テーマ「道徳の教科化に向けて」

香川県教育委員会事務局義務教育課と香川大学教職大学院の連携・協働により、かがわ道徳ラボ指導者研修会を下記の通り実施する。

日時 平成28年12月12日 9:30～10:55

場所 香川県教育センター

対象 香川県内の県、市町教委等の指導主事

講師 香川大学教職大学院 教授 七條正典、准教授 齋藤嘉則、准教授 植田和也

○ 講話及び協議について 9:30～10:55
・プレゼン準備及び講師紹介…5分

① 講話「道徳の教科化に向けて」…40分 (9:35～10:15)

講話① 香川大学教職大学院 七條 正典…25分

講話② 香川大学教職大学院 植田 和也…15分

② グループ協議…20分〔義務教育課で司会〕 (10:15～10:35)

「道徳の教科化に向けた課題について」

七條・植田の講話を受け、課題に思ったこと等の質問をグループでまとめる。

(例)学校教育全体で行う道徳の評価と道徳科の評価の関係はどのようになるのか。

③ 意見交換…20分〔植田先生、齋藤先生に質問〕 (10:35～10:55)

回答者 香川大学教職大学院 齋藤 嘉則

香川大学教職大学院 植田 和也

・グループ協議で出た質問を各グループから1つ出し(重複は避けて)香川大学の先生に答えてもらう。司会者が質問する。

※どここの場所で司会をするかは別紙。

【本件連絡先】

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 高尾 明博
TEL:087-832-3741(代表) FAX:087-806-0231
E-mail:pd1308@pref.kagawa.lg.jp

香川大学教職大学院
准教授 植田和也
TEL:087-832-1509 (FAX 兼用)
E-mail:k-ueta@ed.kagawa-u.ac.jp



白壁とともに未来へ…

坂出高校創立百周年 (H29)

坂出高等学校 教育創造コース設置イベント ～理想の教師をめざして～ 「香川大学教育学部と教育について語る会」を開催しました

坂出高校では、香川大学教育学部と連携をして、将来教員を志望する生徒を対象とした、「教育創造コース」を、来年度、県内で初めて設置します。

去る 11 月 4 日 (金)、同コース設置のイベントとして、同学部から計 20 名もの教員 学生の方々を招き、本校の生徒とともに「理想の教師像」「高校時代にしておくべきこととは」などのテーマについて、ともに語り合う行事を行いました。

同学部が高校と連携をして、今回の行事のような教育活動を行うことは初めてのことでしたが、会は大変に盛り上がり、香大、坂高双方、大きな刺激を受けました。



まずは自己紹介。

1、3年生の混じった9グループそれぞれに、香大の学生さんと、先生がひとりずつ入ってくれました。

まだちょっと緊張気味…)

《グループ討議》

話のテーマは

「理想の教師像」だけど

「こんな先生がいたよね」

とかの話で徐々に

ヒートアップ。



「じゃあ高校時代に
しておくべきことって
なんだろう？」



発表》

「じゃあ発表したい班は …
はいあなた！」



生徒に親身になって
相談に乗ってあげられ
るような先生になり
たいです。
いろんな人や、興味
のあることに積極的
に関わって視野を広げ
ていきたいです。」

熱血で包容力のある先生がいいです。
生徒に感情でぶつかっていきたい。
人に気持ちをちゃんと伝えられるように
普段から心がけたいです。」

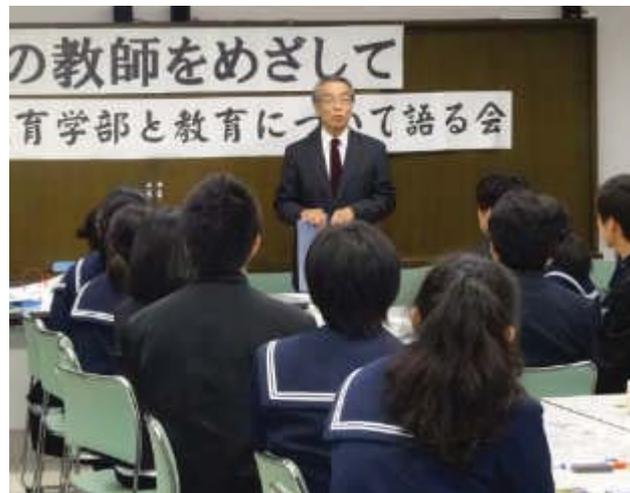


人の目を見て話すと、簡単そうで実は難しいということに、部活を通して気がつきました。
人の目を見ると、その人がどう思っているかがわかるから、それによって自分の対応も変えられる。
子どもと接するときには大切なことなんじゃないかな。」

教育学部 有馬副学部長からご講評》

目標に向かって、一生懸命生きている人は、
生き生きしています。また周りの人も、
それを見ているとうれしくなってきます。
今日はみなさんを見てたいへんうれしい
気持ちになりました。」

目標が決まっている人も、まだ迷っている人も、
何か一つ自分の強みを持ち、さまざまな偶然の
出会いをその後の人生に活かすことによって、
人間力や人間的魅力を磨いてください。」



平成29年4月

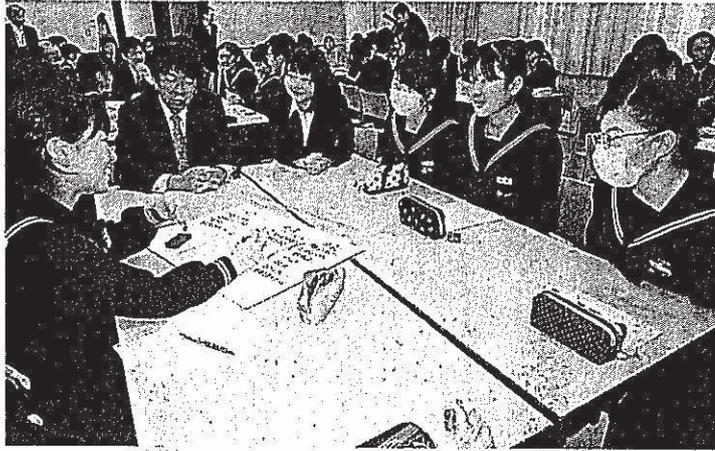
坂出高校 普通科 教育創造コース

ついにスタート！

「理想の教師像」探る

坂出高生、香川大生と議論

来春、教職コース設置



理想の教師像などについてグループ討論する高校生や大学生ら＝坂出市文京町、坂出高

ている香川大教育学部の教授や学生ら計約70人が参加した。

参加者は9班に分かれて和やかに意見交換。「理想の教師像」については「親身になり、個性を受け止めて考えてくれる」「生徒に寄り添い、熱血で包容力がある」などのほか、「生徒のためにという信念を曲げず、生徒に向き合うのが大事」との意見が出た。

また「高校時代にしておくべきこととは」については「対人関係を築くために地域活動やボランティア活動に自ら参加する」「たくさんさんのことを経験し、積み重ねた失敗から学んだことをアドバイスできれば」などの考えを示した。

同校3年の中條佳菜子さん(17)は「みんなと意見を交わし、まずは先生への意欲が湧いた。子どもを見守られる先生になれるよう頑張りたい」と話していた。

来春4月、坂出高校(平畑博人校長)に県内で初めて教職コースが設置されることを踏まえ、教育について語る会が4日、坂出市文京町の同校で開かれた。教員を志望する在校生が香川大教育学部の学生らと「理想の教師像」などをテーマにグループ討論し、夢や希望にあふれる将来への思いを熱く語り合った。

新設されるのは、教員志望の生徒を対象とした「教育創造コース」。今回の語る会は、新コース設置とともに、来年に控えた創立100周年のプレ行事として同校が企画。1年生と3年生、新コース設置で連携し

覺書・要項

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力に当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長
各副学部長
教育研究評議員
実地教育委員会委員長
学生支援専門委員会委員長
学務委員会委員長
入試委員会委員長
附属学校代表
附属教職支援開発センター長
事務課長

香川県教育委員会

教育長
理事
教育次長
総務課長
義務教育課長
高校教育課長
特別支援教育課長
香川県教育センター所長